

平成 23 年度特別展
チャールズ・ワーグマン来日 150 周年記念

ワーグマンが見た海

—洋の東西を結んだ画家—

150 Years Since Charles Wirgman's Arrival in Japan: A Commemorative Exhibition
Charles Wirgman and the artists who bound East and West

このたびチャールズ・ワーグマンの来日 150 周年を記念して、特別展「ワーグマンが見た海—洋の東西を結んだ画家—」を開催致します。

チャールズ・ワーグマン Charles Wirgman(1832-91) は、1832 年にロンドンで生まれました。1857 年、25 歳のとき、『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』*The Illustrated London News* 社の特派員として現在の中国へと向かいます。そして、1861 年(文久元)、開国後まもない日本にやってきました。彼が取材し描いた記事と絵は本国へ送られ同紙の記事となり、全ヨーロッパへ向けた貴重なアジアの情報となりました。

また、ワーグマンは西洋絵画技術を本格的に日本人に教授したことで知られています。

本展覧会では、約 250 点のワーグマンの作品や彼の弟子たちの作品、また関連資料を展示します。幕末明治の日本の政治動向や風俗を描いた作品からは、報道記者としての彼の真摯なまなざしが感じられるでしょう。また、ワーグマンから西洋絵画の技術や精神を学んだ日本人の作品からは、彼が当時の洋の東西をつなぐ役割を果たしたことが理解されるでしょう。

19 世紀後半の激動の世界情勢の中、過酷な海を渡り、横浜の海に安らぎを求めたワーグマンについて思いを馳せて頂きたいと思います。



チャールズ・ワーグマン 《自画像》 東京藝術大学

会場



神奈川県立歴史博物館

Kanagawa Prefectural Museum of Cultural History

〒231-0006 神奈川県横浜市中区南仲通 5-60

Tel 045-201-0926 Fax 045-201-7364

URL: <http://ch.kanagawa-museum.jp>

会期

平成 23 (2011) 年

6 月 11 日 (土) ▶ 7 月 31 日 (日)

【開館時間】

午前 9 時 30 分～午後 5 時 (入館は午後 4 時 30 分まで)

【休館日】

毎週月曜日 (7 月 18 日は開館)

* 会期中、展示替をおこないません。

作品の出品時期については、あらかじめお問い合わせください。

❶ 航海 *The Voyage*

ワグマンが旅立ったのは、1857年のこと。中国とイギリスの間でおこったアロー戦争取材することが主な目的でした。日本に来るまでの数年間は、彼にとって修行のような意味合いもありました。

本章では、『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』に掲載された挿画と、同時代の水彩画を紹介します。 (●すべてチャールズ・ワグマン/神奈川県立歴史博物館蔵)



●『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』
1860年4月14日



●《広東城壁上のキャンプ》



●《風の日、昼食後の船尾》1857年

❷ 港ヨコハマ *The Port of YOKOHAMA*

1861年、和暦にすれば文久元年、ワグマンは初来日を果たします。開国まもない日本の様子を伝えることが来日当初の主な仕事でした。その後『ジャパン・パンチ』の発行を主としながら、およそ30年間日本で暮らしました。

本章では、『イラストレイテッド・ロンドン・ニュース』に掲載された挿画や日本で描いた油彩画、水彩画、そして『ジャパン・パンチ』を紹介します。



■《西洋紳士スケッチの図》
郡山市立美術館



■《若い女の肖像》
栃木県立美術館

★ Ⅲ 海を越えた技術、海を越えた弟子たち *Wirgman's Techniques and Pupils*

ワグマンは当時の日本の絵画動向に大きな影響を与えました。

ひとつは、本格的な西洋絵画技術を伝えたことです。彼の弟子として五姓田義松、高橋由一が有名です。もうひとつはいわゆるマンガです。『ジャパン・パンチ』の表現は近世以来の風刺画の展開に新たな刺激を与え、「ポンチ絵」として多くの追従者が生まれました。

本章では、弟子たちの作品やポンチ絵などの関連作を紹介します。



★ 河鍋暁斎・仮名垣魯文
『絵新聞日本地』
神奈川県立歴史博物館



★ 高橋由一《相州江之島図》個人